

今回は八代町の永井地区を紹介  
します。永井という地名は、今  
から1070年ほど前（平安時代中  
期）に編さんされた「和名類聚抄」  
という書物に記載されている行政  
区画の名称、八代郡長江郷に由来  
しているといわれています。

さて、永井地区には、霊亀元（7  
15）年に無音律師という僧侶に  
よって開かれた瑜伽寺というお寺  
があります。瑜伽寺は八代町で最  
も古い寺で、山門をくぐって境内  
に入ると、正面に建つ薬師堂が目  
に止まります。薬師堂は420年  
ほど前に建てられたもので、何度  
か修理されていますが、建てられ  
たころの古い特徴を残しています。

この寺には山梨県から有形文化  
財の指定を受けた木造如来形坐像、  
塑像仏像（粘土で造られた仏像の  
かけら、木造十二神将立像があり、  
大切に守られています。木造如来  
形坐像はヒノキの一木造りで、像  
の高さが約85センチあります。今  
から1100年ほど前に制作され  
たものと考えられ、制作当時は漆  
箔や漆塗が行われていたようです。  
県内では甲州市勝沼町の大善寺に  
ある木造薬師如来坐像に次ぐ如来

# 訪 探 市 吹 笛

シリーズ 第2回

ながい

## 八代町永井地区



瑜伽寺境内にある薬師堂

形像として、貴重な存在となっ  
ています。塑像仏像のかけらは奈良  
時代の塑像制作の技法と表現上の  
特色をよく伝えており、薬師三尊  
像であった可能性が指摘されてい  
ます。古くからこの寺に伝えられ  
てきたもので、寺の歴史を考える  
上で重要なものです。木造十二神  
将立像は何れもヒノキ製で、立つ  
た武人の姿をしています。像の高  
さが85センチから92センチあり、  
今から810年ほど前に制作さ  
れたものと考えられています。が、  
文久3（1863）年に色を塗  
る修理が行われています。

また、瑜伽寺の東隣りにある永  
井天神社にも古くから伝わる文化  
財があります。それは近隣の人達  
から「永井のおかぐら」と呼ばれ、  
親しまれている天神社神楽です。  
この神楽は大和神楽または太々神



木造如来形坐像(写真提供、サンニチ印刷)

楽といわれるもので、580年ほ  
ど前に始められました。その後、  
一時途絶えていましたが、明治21  
（1888）年に再開され、毎年  
4月3日の例大祭の日に奉納され  
ています。



永井天神社の参道



瑜伽寺の山門